

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教 員一人 あたりの 在籍学 生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち	助手			
							理学 療法 士又 は作 業療 法士 数				
理学療法 学科・作 業療法学 科	人	人	7人	人	7人	6人	7人	人	人	人	
課程	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
計	人	人	7人	人	7人	6人	7人	人	人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

教育課程

神村学園専修学校 作業療法学科

分野	指定規則 教育内容	担当授業 科目名	担当コマ数	担当職員		
				氏名	職名	
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	心理学	15	常田つかさ	専任	
		国文学	15	大橋晶子	兼任	
		哲学	15	種村亮司	兼任	
		社会福祉学	15	重久晃一	兼任	
		教育学	15	山下みどり	兼任	
		生物学	15	鮫島正道	兼任	
		物理学	15	立石 洋	兼任	
		基礎IT学	10	黒木辰朗	兼任	
		保健体育学	10	三原栄依	兼任	
		レクリエーション	10	谷口慶子/俣積田大志/常田つかさ	専任/専任/専任	
		音楽	10	相木祐香/田中理砂	兼任/兼任	
		一般英語	15	上村真之	兼任	
		社会学	15	山下みどり	兼任	
		人間関係学	15	谷口慶子	専任	
			小計	190		
		専門基礎分野	体の構造と機能及び心身の発達 疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進 保健医療福祉と リハビリテーションの理念	解剖学Ⅰ	30	田川知恵子/立石洋/寺師拓斗/藤村勇人
解剖学Ⅱ	30			田川知恵子/立石洋/寺師拓斗/藤村勇人	専任/専任/専任/専任	
生理学Ⅰ	30			田川知恵子/立石洋/寺師拓斗/藤村勇人	専任/専任/専任/専任	
生理学Ⅱ	30			田川知恵子/立石洋/寺師拓斗/藤村勇人	専任/専任/専任/専任	
運動学Ⅰ	20			宇都未佑	専任	
運動学Ⅱ	20			宇都未佑	専任	
臨床心理学	15			谷口慶子	兼任	
病理学	15			吉田愛知	兼任	
一般臨床医学	20			立石洋/福島洋子/上野多吉子	専任/兼任/兼任	
内科学	20			實宿明子	兼任	
整形外科Ⅰ	10			寺師拓斗	兼任	
整形外科Ⅱ	10			藤村勇人	兼任	
神経内科学	20			渡裕一	専任	
精神医学	20			谷口慶子/俣積田大志/常田つかさ	専任/専任/専任	
精神機能学	15			俣積田大志	専任	
人間発達学	15			渡裕一	専任	
小児科学	15	川島清美	兼任			
	小計	370				
O T 専門	基礎作業療法学	作業療法概論Ⅰ	15	谷口慶子	専任	
		作業療法概論Ⅱ	15	日高俊和	専任	
		基礎作業学Ⅰ	15	松元大介	兼任	
		基礎作業学Ⅱ	15	宇都未佑	専任	
		基礎作業学実習Ⅰ	15	村岡良寛/谷口慶子/常田つかさ	兼任/専任/専任	
		基礎作業学実習Ⅱ	15	松元大介	兼任	
	作業療法管理学	作業療法管理学	15	黒木辰朗	専任	
		作業療法評価学	身体機能評価法Ⅰ	10	日高俊和	専任
			身体機能評価法Ⅱ	10	宇都未佑	専任
			身体機能評価法実習	40	日高俊和	専任
			精神機能評価法Ⅰ	10	谷口慶子	専任
			精神機能評価法Ⅱ	10	谷口慶子	専任
	精神機能評価法実習		40	谷口慶子	専任	
	作業療法治療学	身体機能治療学Ⅰ	20	宇都未佑	専任	
		身体機能治療学Ⅱ	10	黒木辰朗	専任	
		身体機能治療学実習	40	山下孔明	兼任	
精神機能治療学Ⅰ		20	俣積田大志	専任		
精神機能治療学Ⅱ		10	俣積田大志	専任		
精神機能治療学実習		40	俣積田大志	専任		
発達機能治療学		20	渡裕一	専任		
発達機能治療学実習		15	渡裕一	専任		
高齢期作業療法学		30	道岡浩樹	兼任		
高次神経機能治療学		20	日高俊和	専任		
義肢装具学		20	日高俊和	専任		
日常生活活動		10	宇都未佑	専任		
日常生活活動実習		20	黒木辰朗	専任		
日常生活活動実習		15	山下孔明	兼任		
地域作業療法学	職業関連活動	15	宇都未佑	専任		
	地域作業療法学	20	宇都未佑	専任		
臨床作業療法学(基礎)	介震技術学	15	宇都未佑	専任		
	総合特論Ⅰ	40	日高俊和	専任		
臨床作業療法学(専門)	総合特論Ⅱ	40	日高俊和	専任		
	見学実習	24	俣積田大志	専任		
	地域リハビリ実習	20	日高俊和	専任		
	評価実習Ⅰ	90	宇都未佑	専任		
	評価実習Ⅱ	90	宇都未佑	専任		
	臨床実習Ⅰ	180	日高俊和	専任		
	臨床実習Ⅱ	180	日高俊和	専任		
	小計	1229				
	合計	1789				

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報:臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
見学実習	1年次前期	作業療法概論Ⅰ・Ⅱ	1年次前期
地域リハ見学実習	3年次前期	地域作業療法学、職業関連活動	2年次前後期
評価実習Ⅰ	2年次後期	身体機能評価学ⅠⅡ 身体機能評価学実習 精神機能評価学ⅠⅡ 精神機能評価学実習	2年次前期
評価実習Ⅱ	2年次後期	身体機能評価学ⅠⅡ 身体機能評価学実習 精神機能評価学ⅠⅡ 精神機能評価学実習	2年次前期
臨床実習Ⅰ	3年次前期	身体機能治療学ⅠⅡ 身体機能治療学実習 精神機能治療学ⅠⅡ 精神機能治療学実習	2年次後期
臨床実習Ⅱ	3年次前期	身体機能治療学ⅠⅡ 身体機能治療学実習 精神機能治療学ⅠⅡ 精神機能治療学実習	2年次後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
○	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	学校評価委員会
委員名(委員長)	神村 慎二
組織の開催頻度	年 2 回
組織の取り組み内容	学校全体から実施する自己点検・評価
	各学科が行う自己点検・評価の把握
	自己点検・評価結果の公表
	内部質保証に対する必要な取り組み
自己点検・評価結果の公表	学校ホームページ

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
○	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	学校自己点検・評価委員会
	委員構成等	副校長・教頭・各学科長・各教務主任
	改善の仕組みの実際	教員による自己評価・学生による他者評価の把握と必要な取り組みの検討

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価及び第三者評価の結果を職員に周知し、問題点を認識し、改善する取り組みを実施する。  
各組織長や学科長が定期的に確認する機会を設け取り組みを評価し、支持を行う。